



令和8年度

学力・学習状況 充実プラン

全国学力・学習状況調査を踏まえた
授業改善の提案



愛知県教育委員会義務教育課
愛知県総合教育センター



1 令和8年度学力・学習状況充実プランについて

令和8年度全国学力・学習状況調査が、4月23日【木】〈調査基準日〉（中学校英語はオンライン実施で4月20日～24日の間）に小学校6年生、中学校3年生を対象に行われました。今年度の調査は、小学校国語、算数、中学校国語、数学、英語について実施されました。経年変化等の分析からは、改善の傾向が見られたものがある一方、依然として課題が認められるものがあります。

そこで、本県の児童生徒の現状から見えてきた課題等を基に、「令和8年度学力・学習状況充実プラン」を作成しました。児童生徒の学力・学習状況の向上・改善のために、調査対象の学年のみならず、全ての児童生徒を対象とした授業改善に役立てていただけるよう工夫しました。

また、各教科の「問題別調査結果と授業改善のポイント」のページには、国立教育政策研究所教育課程研究センターの二次元コードを添付し、授業アイデア例を参考にすることもできるようにしてあります。ぜひ、併せて活用してください。

1 令和8年度学力・学習状況充実プランについて

2 授業改善に向けて

- (1) 小学校の正答数分布の傾向 1
- (2) 中学校の正答数分布の傾向 2
- (3) 小学校の問題別調査結果と授業改善のポイント
 - ①国語 3
 - ②算数 5
- (4) 中学校の問題別調査結果と授業改善のポイント
 - ①国語 7
 - ②数学 9
 - ③英語 11
- (5) 質問調査の傾向 13
- (6) 授業改善の方向性 17

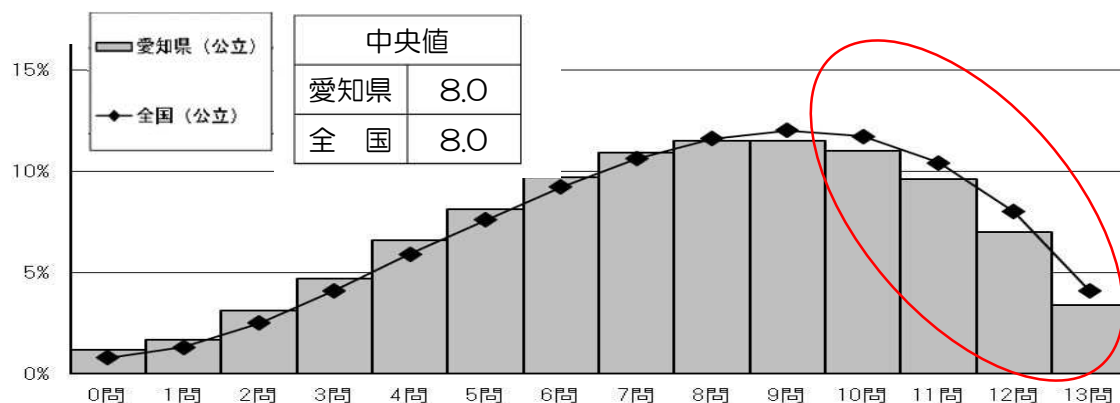
3 先生方へ

2 授業改善に向けて



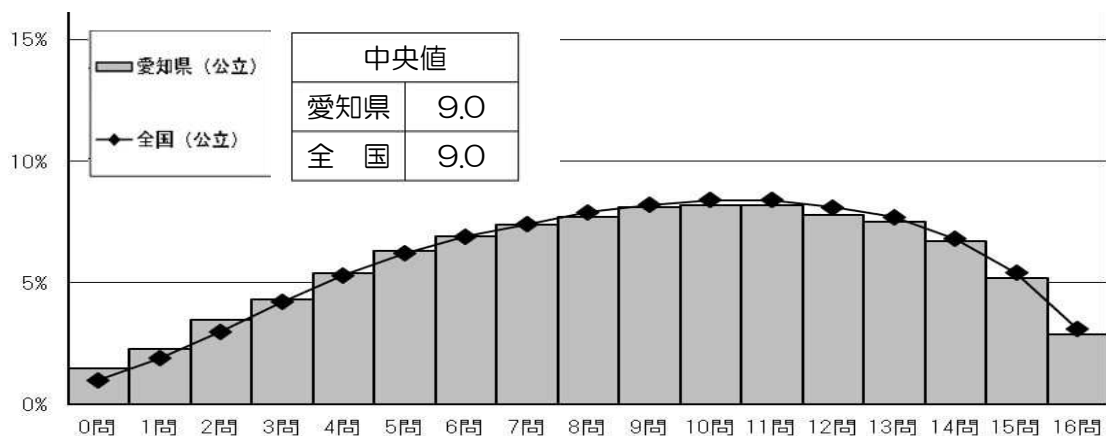
(1) 小学校の正答数分布の傾向

小学校国語 平均正答率59% (全国平均正答率60.9%)



- ・ 全国平均より低く、成績上位層も少ない傾向でした。

小学校算数 平均正答率55% (全国平均正答率56.4%)

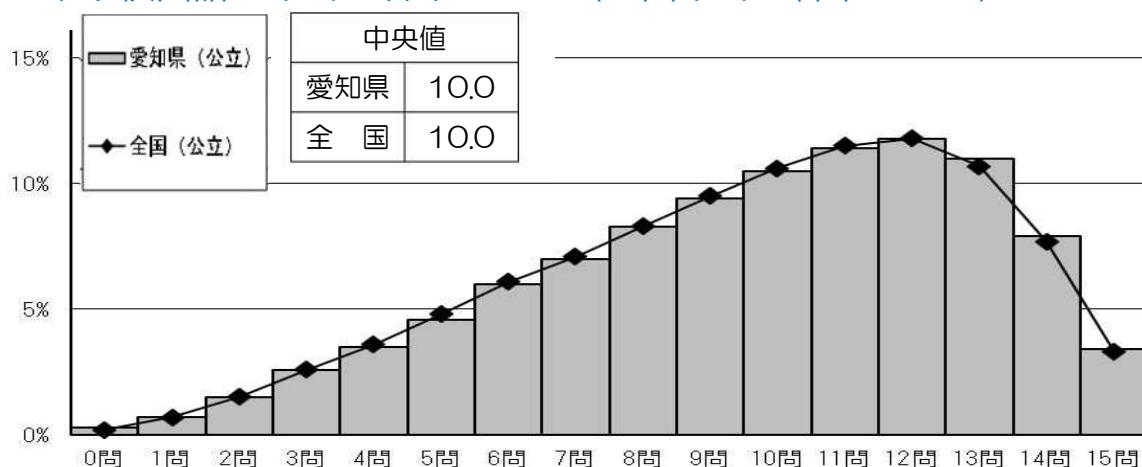


- ・ 正答率、分布ともに全国平均とほぼ同程度の傾向でした。



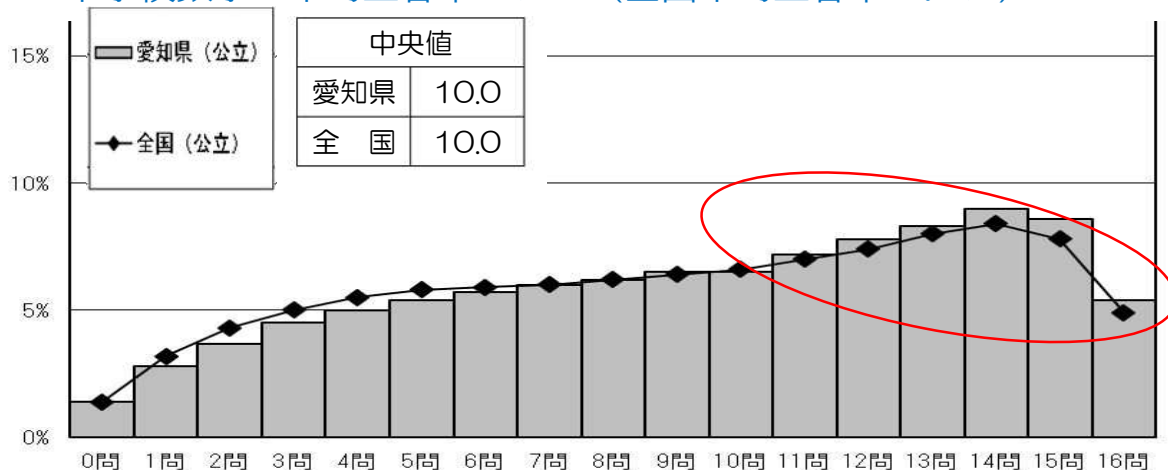
(2) 中学校の正答数分布の傾向

中学校国語 平均正答率64% (全国平均正答率63.9%)



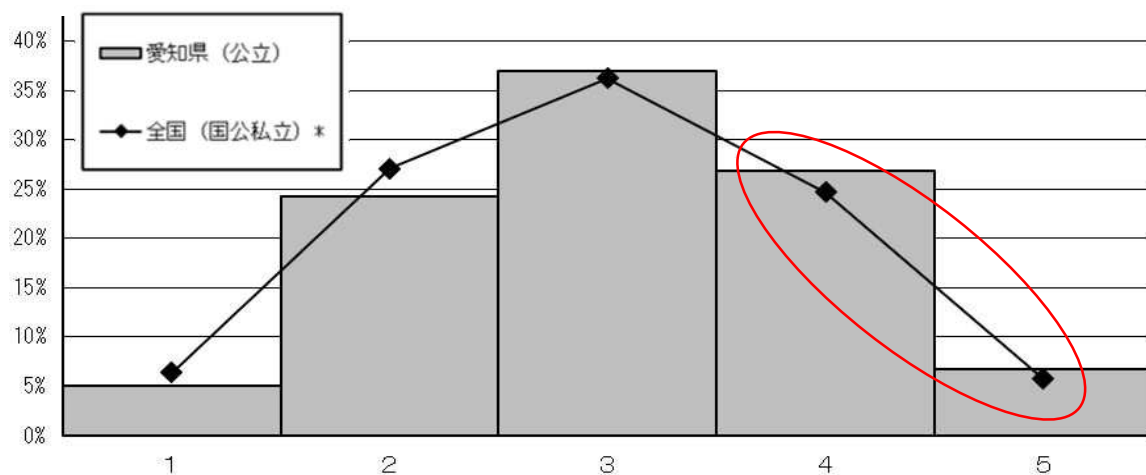
- ・ 正答率、分布ともに全国平均とほぼ同程度の傾向でした。

中学校数学 平均正答率59% (全国平均正答率57.0%)



- ・ 全国平均より高く、成績上位層も多い傾向でした。

中学校英語 平均IRTスコア510 (全国平均IRTスコア499)



- ・ 全国平均より高く、成績上位層も多い傾向でした。

(3) 小学校の問題別調査結果と授業改善のポイント 【小学校国語】

集計結果

【平均正答率(%)】 愛知県(公立) 59 / 全国(公立) 60.9

問題別調査結果(全体)



問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			(愛知県 公立)	(全国 公立)	(愛知県 公立)	(全国 公立)
1二(3)	〈音声〉の下線部の工夫の効果として適切なものを選択する	比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる	60.9	65.2	1.2	0.8

【課題】 比喻や反復などの表現の工夫に気付くことに課題がある。

【指導のポイント】 表現の工夫には比喻や反復、倒置など様々なものがある。それらについて「話すこと・聞くこと」の学習だけでなく、「書くこと」や「読むこと」の学習においても、触れたり、味わったりしながら学んでいくことが大切である。そして、表現の工夫には様々な種類があることを知識として学ぶだけでなく、それぞれの表現を用いることのよさや、効果について押さえることが重要である。また、日々の学習の中で、児童が自分の思いをよりよく伝えるために表現の工夫を活用しようとした場合は、表現の幅が広がるよい機会と捉え、積極的に学級の中で共有していくことが大切である。

2四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	30.5	33.5	6.3	5.2
----	---	--	------	------	-----	-----

【課題】 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

【指導のポイント】 適切に引用している文章とそうでない文章を読み比べ、引用することで、自分の考えに説得力をもたせることができることなど、引用することのよさを児童が捉えられるようにすると効果的である。引用するときには、自分の考えと、引用した文章で述べられた考えを区別して示し、引用する文量を適切にするよう指導することが重要である。その際、引用部分はかぎ(「」)でくくることが、出典を明示することなど、具体的な引用の仕方も合わせて伝えることが大切である。また、引用する情報は誰が発信した情報なのか、自分の考えの根拠になりうるものなのかといった、情報の信頼性・妥当性・客観性などを確かめさせることも必要である。

授業アドバイスシート:次ページ

小学校国語

小学校国語 2四 《平均正答率 30.5%（全国平均正答率33.5%）》

【出題の趣旨】

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

〇〇〇〇〇
（条件）

【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。百四十文字以内にまとめて書くこと。

【花山さんの文章の続き】

- 4 すずしく過ごせる衣服の色は何か
「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだ。
また、

5 終わりに
これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

（参考文けん）

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しやすいため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

- 1 はじめに
夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがアミじかい方がすずしいのではないかな。なぜ、長そでの服を着ているのか、ふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。
- 2 どうして暑い日に長そでの服を着るのか
「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直して日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。
では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。
- 3 すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか
「熱中しょうかん境保健マニュアル2022」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やそそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。②図のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだ。
では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

（図）



2
花山さんの学年では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことにしました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いていきます。次の「花山さんの文章の一部」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。



★授業改善のポイント★

引用する目的を明確にした上で、本や文章などから必要な語句や文を抜き出して書くことが重要です。原文に正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にし、区別して書くことが大切です。引用する際には、引用した文章の出典について必ず明記するとともに、引用部分が適切な量になるようにする必要があります。

授業においては、「読み手に納得してもらうために、自分の考えの根拠となる客観的なデータや事例を示したい。」など、引用する目的を児童が自覚できるようにすることが重要です。

《学習計画》

- ①引用について考える
- 複数の文章を比較し、引用することの目的やよさを捉えられるようにする。
 - 引用する部分と自分の考えを区別して書くことを押さえる。
 - 情報の発信元を確認することなど、信頼できる情報かどうか確認することの大切さを知る。
- ②引用して文章を書く
- 課題に対する自分の考えをもつ。
 - 引用する目的を明確にする。
 - どのような内容を抜き出すのか、抜き出す語句や文を見定める。
 - 引用の仕方に基づいて、必要な部分を適切に引用する。

【授業アイデア例】国立教育政策研究所報告書 P.57～64

https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26plang_idea_02.pdf#page=15



【小学校算数】

問題別調査結果（全体）



集計結果

【平均正答率（％）】 愛知県（公立）55 / 全国（公立）56.4

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			(愛知県 公立)	(全国 公立)	(愛知県 公立)	(全国 公立)
1 (3)	1立方センチメートルの立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く	体積の意味について理解しているかどうかをみる	38.3	40.1	5.6	4.2

【課題】（1）の正答率(70.7%)と比較すると縦×横×高さなどの公式に数字を当てはめて答えを出すことには慣れていても、体積とは何か（単位のいくつか）という本質的なイメージや概念的理解が十分に定着していないことが課題である。

【指導のポイント】 1cm^3 を単位として大きさを捉え、そのいくつかで立体の大きさを表すことを通して、立体の占める空間の大きさを表す量が体積であることを理解できるようにすることが重要である。例えば、同じ大きさのブロックを用いて直方体や立方体を組み立て、そのブロックの個数を数える活動を取り入れることが考えられる。その際、形が異なっても、用いたブロックの個数によって体積を比べることができると気付けるようにする。また、体積は面積の場合と同様に、単位となる大きさを定め、そのいくつかであるかによって数値化して表せることを理解できるようにする。さらに、1辺が 1cm の立方体を単位体積(1cm^3)として用いることで、体積は隙間や重なりがないように敷き詰めた単位立方体の個数として捉えられることに気付けるようにすることが大切である。

3 (4)	$\frac{5}{3}$ を表す目盛りが示された数直線上で、 $\frac{1}{3}$ を表す目盛りを選ぶ	単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる	63.7	68.1	3.7	2.7
----------	---	---	------	------	-----	-----

【課題】単位分数の個数に着目して数直線上の1を表す目盛りを捉えることや、目盛り一つ分の大きさを理解すること、また1より大きい分数の理解に課題が見られる。

【指導のポイント】数直線上で目盛り一つ分の大きさや単位分数の個数に着目し、各目盛りを分数で表す活動を通して、分数の意味や表し方についての理解を深められるようにすることが重要である。本設問では、5番目の目盛りが $\frac{5}{3}$ であることを基に、目盛り一つ分の大きさを $\frac{1}{3}$ と捉え、 $\frac{1}{3}$ が5つ分で $\frac{5}{3}$ になることに気付けるようにする。また、分子の5が $\frac{1}{3}$ が5つ分あることを表していることを確認し、分数の意味を捉えられるようにする。さらに、目盛り一つ分の大きさが $\frac{1}{3}$ であることから、 $\frac{1}{3}$ が3つ分集まる3番目の目盛りが1を表していることにも気付けるようにする。このような活動を通して、分数は単位分数のいくつかとして表されることが、数直線上でその大きさを表すことができることへの理解を深められるようにすることが大切である。

授業アドバイスシート:次ページ

小学校算数

小学校算数 3(4) 《平均正答率 63.7% (全国平均正答率68.1%)》

【出題の趣旨】

単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる。

3 (4)

次の数直線で オ の目もりは $\frac{5}{3}$ です。

1を表す目もりはどこですか。

下の ア から カ までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。



★授業改善のポイント★



分数を単位分数の個数として捉える見方を身に付けることが重要です。そのため、数直線を用いて目盛り1つ分の大きさを考えたり、1を表す位置を求めたりする活動を意図的に設定します。例えば、設問のように5番目の目盛りが $\frac{5}{3}$ を表している場合、目盛り1つ分は何になるかを問います。そして、目盛り1つ分が $\frac{1}{3}$ であることを見だし、 $\frac{1}{3}$ が5つ分という関係を数直線上で確かめる活動を丁寧に行います。ここで、分子が単位分数の個数を表していることを理解できるようにします。また、目盛り1つ分が $\frac{1}{3}$ であることを基に、 $\frac{1}{3}$ が3つ分で1になることを押さえます。このように、1より小さい分数と1、さらに1より大きい分数を同じ数直線上で関連付けて扱うことで、分数を連続量として捉えることができます。さらに、答えを求めるだけでなく、「なぜそう考えたのか」を図や数直線を用いて説明し合う活動を取り入れることで、単位分数の個数に着目する見方を共有し、分数の概念の理解が深められます。

【授業アイディア例】国立教育政策研究所報告書 P.86～89

https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26pmath_idea_03



(4) 中学校の問題別調査結果と授業改善のポイント
【中学校国語】

問題別調査結果(全体)



集計結果

【平均正答率(%)】 愛知県(公立) 64 / 全国(公立) 63.9

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			(愛知県 公立)	(全国 公立)	(愛知県 公立)	(全国 公立)
2四	話し合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる	50.5	52.7	17.0	14.7

【課題】自分の考えとその理由を述べることにとどまり、話し合いの展開に応じて互いの立場や考えを結び付けたり、話し合った内容を踏まえて述べたりすることに課題がある。

【指導のポイント】互いの立場や考えを尊重しながら話し合うためには、話し合いに参加している人が、それぞれの置かれた立場や意見が出された背景について理解しながら話したり聞いたりすることが重要である。結論を導くために考えをまとめるとは、異なる立場や考えがあることを前提にしつつも、一定の結論に向かって考えをまとめることである。一方的に自分の考えを主張するのではなく、互いの考えを捉える中で見いだした共通点や相違点、新たな提案などを踏まえて、話し合いが進展するような発言をすることが大切である。指導においては、提示された課題に対する自分の考えをもった上で、グループで話し合い、出された意見とその根拠を結び付けたり、目的に応じて必要な情報に着目して要約したりして、グループとしての考えをまとめていく活動を行うなど、提示された課題について、話し合い活動を基に考えをよりよいものにしていくという活動を日常的に取り入れていくことが大切である。

授業アドバイスシート:次ページ

4四	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができかどうかをみる	38.2	38.9	18.9	18.6
----	---	--	------	------	------	------

【課題】文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題がある。

【指導のポイント】「文章を読んで自分の考えを確かなものにする」とは、文章の内容や構造を捉え、そこから考えたり理解したりしたことを基にして、自分の考えをもつことである。指導においては、課題に対して考えをもった上で、文章を読んで理解したことを根拠とともに他者に説明したり、他者の考えやその根拠を知ったりするグループ交流を取り入れていくことが有効である。

中学校国語

中学校国語 2四 《平均正答率 50.5%（全国平均正答率52.7%）》

【出題の趣旨】

互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる。

② 合唱コンクールの委員である山下さん、石川さん、大森さんは、学級の目標を達成するための課題についてアンケートを取り、その解決のために、出された意見をタブレット端末上で共有しながら話し合っています。次の「アンケートの結果を示した画面」【話し合いの一部】、【話し合いを受けて整理した画面】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【話し合いの一部】

山下 私たちの学級の目標は、「美しい歌声を響かせよう」です。アンケートで「目標を達成するための課題」として挙げられたものを、タブレット端末で共有したので、画面を見て下さい。③ まずはみんながどんなことを課題として考えているかを整理した上で、どうしていいか考えをまとめよう。

石川 そうですね。（目標を達成するための課題）を見ると、歌の表現の仕方に開くものと、練習への取り組み方に開くものの二つに分けられるのではないのでしょうか。

山下 私もそう思います。例えば、「歌声に強弱がつけられていない」や「高い音の部分がうまく歌えない」もそれに入りますよ。

石川 「歌い出しのタイミングがそろわない」もそれに入ります。

大森 そうすると、それ以外の「練習を始めるまでに時間がかる」「練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない」は、練習への取り組み方に開くものになりますね。

山下 まずは、「目標を達成するための課題」を二つに分けられましたね。

大森 では、このあとどうしていいかを考えましょう。私は、歌の表現の仕方に開くものは、音楽科の先生に相談するのがいいと思います。私もそう思います。ただ、「歌い出しのタイミングがそろわない」については、指揮者をよく見てタイミングをそろえるなど、自分たちで取り組むことができない気がします。

山下 そうですね。では、まずは自分たちで取り組んでみましょう。賛成です。

大森 いろいろな意見が出たので、④まで話し合ったことを受けて、「音楽科の先生に相談すること」と「自分たちで取り組むこと」に整理してみました。どうでしょうか。

石川 先生や学級のみんなに伝える言い方になっていいと思います。その内容をみんなにどのように伝えるかが大切ですね。

山下 そうですね。では、この「自分たちで取り組むこと」は、学級のみんなにどのように伝えるといいでしょうか。

大森 この画面をオンライン上の学級のページに載せるのがいいと思います。タブレット端末を見て、取り組み方をいつまでもまとめて確認することができるので、練習するときに気を付けることができます。

石川 私は、練習ごとに「一つずつ取り組むこと」を呼びかけていくのがいいと思います。一つ一つしっかりと意識しながら練習できると思います。

山下 二つの意見が出ましたね。では、話し合いをまとめていきます。

大森 「美しい歌声を響かせよう」という目標に向けて練習するために、学級のみんなにどのように伝えるといいでしょうか。

【話し合いを受けて整理した画面】

（音楽科の先生に相談すること）
・歌声に強弱がつけられていない。
・高い音の部分をうまく歌いたい。
（自分たちで取り組むこと）
・指揮者をよく見て、歌い出しのタイミングをそろえよう。
・集まったらずきに練習を始めよう。
・練習後の振り返りのときに、意見や感想を積極的に出そう。

④ 【話し合いの一部】で山下さんは、「美しい歌声を響かせよう」という目標に向けて練習するために、学級のみんなにどのように伝えるといいでしょうか」と投げかけています。これを受けて、あなたならどのような意見を述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、この場の三人に実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、「本欄で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。」

条件1 学級のみんなにどのように伝えるといいかについて、自分の考えと理由を書くこと。

条件2 条件1について、大森さんと石川さんの意見の両方を取り上げながら書くこと。



★授業改善のポイント★

互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導く考えをもつには、異なる立場や考えを前提にしながら、一定の結論に向かって考えをまとめることが大切です。

授業においては、話し合いの一部を教材として生徒に示し、生徒がそれを基に登場する人物の意見とその背景についてまとめます。その上で、自分ならどのように発言するかを考え、自分の考えを基に、グループで話し合います。話し合いの中で、登場する人物の意見やその背景、話し合いの内容を踏まえながら、結論に向かって自分の考えを再構築していきます。振り返りの際には、互いの立場や考えを尊重した話し合いをするために重要な視点や、これまでの話し合いの学習で学んできた視点などを踏まえることが大切です。また、ICT機器を用いてグループでの話し合いの様子を録画し、振り返りの場面で活用することなども効果的です。



【授業アイデア例】国立教育政策研究所報告書 P.42～43

https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26mlang_idea_02.pdf



【中学校数学】

問題別調査結果（全体）



集計結果

【平均正答率（％）】 愛知県（公立）59 / 全国（公立）57.0

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			(愛知県 公立)	(全国 公立)	(愛知県 公立)	(全国 公立)
8 (3)	作図の方法から、証明する事柄の仮定として適切なものを選択する	具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる	37.5	37.1	0.9	1.0

【課題】与えられた条件から、証明する事柄の仮定となる辺や角の関係を見いだすことに課題がある。

【指導のポイント】図形の性質を証明する場面において、与えられた条件や示された図から証明する事柄の仮定と結論を明らかにし、数学的に表現する力を育成することが大切である。そのために、作図における操作の意味を確認する場面や、証明問題について言葉、図、記号を関連付けて考える場面を充実させたい。

例えば、角の二等分線や垂線など証明問題の文章に合う図を作図する中で、辺や角について分かることとその理由を話し合う活動を行う。その中で、生徒は作図における各操作の意味を実感することができる。また、証明問題の文章から分かることを問い、それを言葉や図で示したり、記号を使って表したりする活動を行う。そうすることで生徒は数学的な表現のつながりを理解することができる。

このような活動を通して、生徒が証明問題の文章から辺や角の関係を見いだすことができるようにし、証明する事柄の仮定として扱うことができるようにしていくことが大切である。

9 (3)	主張の理由を、2つの度数分布多角形を比較して説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	32.9	31.9	27.1	28.9
----------	----------------------------	---	------	------	------	------

【課題】データの分布の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

【指導のポイント】データの分布から、特徴を読み取る力を育てる必要がある。そのため、データをいくつか比較する活動を取り入れていきたい。その際、データの分布から、形や位置関係、最大値、最小値、山の頂点の位置などに着目して、データの分布の特徴について話し合うことが考えられる。その上で、生徒が、見いだした分布の特徴から結論を導き出す根拠となるものを取り上げ、判断の理由を説明できるようにすることが大切である。

授業アドバイスシート：次ページ

中学校数学

中学校数学9(3)《平均正答率 32.9% (全国平均正答率31.9%)》

【出題の趣旨】

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる。

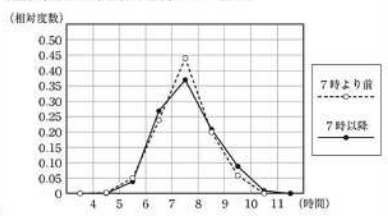
(3) 二人は、睡眠時間の特徴をさらに知りたいと思い、全校生徒を次のように分け、睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。

桃音さん…起床時刻が7時より前と7時以降の生徒に分ける
悠真さん…就寝時刻が23時より前と23時以降の生徒に分ける

桃音さんは、起床時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

桃音さんが調べたこと

起床時刻が7時より前の生徒…211人
起床時刻が7時以降の生徒…89人



桃音さんは、上の2つの度数分布多角形を比較して、次のようにまとめました。

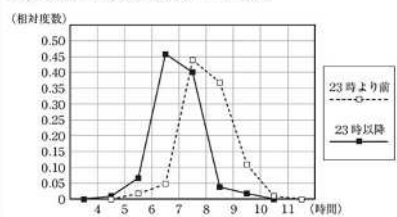
桃音さんのまとめ

2つの度数分布多角形は同じような形である。また、2つの度数分布多角形はほぼ同じ位置にある。
したがって、起床時刻が7時より前の生徒と7時以降の生徒の睡眠時間は同じような傾向にある。

悠真さんは、就寝時刻で分けた場合について、各階級の相対度数を求めて度数分布多角形に表しました。

悠真さんが調べたこと

就寝時刻が23時より前の生徒…152人
就寝時刻が23時以降の生徒…148人



悠真さんが調べたことの2つの度数分布多角形を比較すると、「就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、悠真さんが調べたことの2つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明します。前ページの桃音さんのまとめを参考にして、下の説明を完成しなさい。

説明

したがって、就寝時刻が23時より前の生徒と比べて、23時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある。

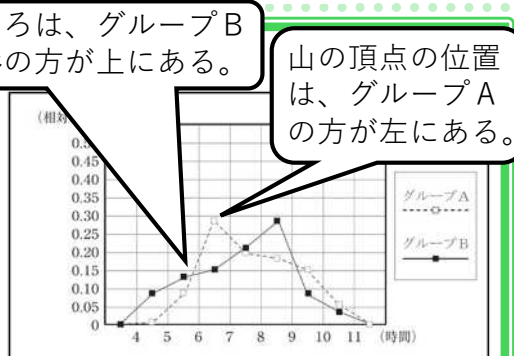


★授業改善のポイント★

データの分布の傾向を比較し、特徴を読み取る力を育てる必要があります。そのため、データをいくつか比較する場面を設定します。

本設問では、2つの度数分布多角形が同じような形であることから、山の位置の違いを根拠にして睡眠時間が短い傾向にあることを主張します。そこで、本設問を活用した授業を行う際、右上のような度数分布多角形を提示します。この度数分布多角形では、グループAの方がグループBよりも睡眠時間が短い傾向にあるとは言えないことが分かります。

このようにして、読み取った特徴が主張することの根拠になるかを考えます。授業では、データから共通点や相違点を話し合う活動や、主張することの根拠になるかを検討する活動を通して、特徴を読み取り、判断したことを説明できるようにしていくことが大切です。



山の頂点の位置は、グループAの方が左にある。



【趣旨・指導に当たって】国立教育政策研究所報告書 P.77～80

https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26mmath_idea_09.pdf



【中学校英語】

問題別調査結果（全体）



集計結果

【4技能ⅠRTスコア】 愛知県（公立）510 / 全国（公立）499

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
			(愛知県 公立)	(全国 公立)	(愛知県 公立)	(全国 公立)
10 (2)	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	29.4	27.8	13.7	14.6

【課題】社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。

【指導のポイント】文章を読んで要点を捉えた後、自分の考えを整理し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して、読み手に伝わるように自分の考えや感想などを書くようにすることが大切である。また、まとまりのある内容を書くことができるようにするため、1～2文程度の簡単な「書くこと」の活動を繰り返すことが大切である。そして、読み手に伝わるように正確に書く力を高めるためには、書いたことについて自分の考えとその理由が伝わるかという視点から生徒同士で話し合う機会を設けたり、多くの生徒に共通した誤りに対し教師からの助言を与えて表現を考えるようにしたりすることが重要である。

授業アドバイスシート:次ページ

19	学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる	25.6	25.8 *国公立	19.2	17.0 *国公立
----	---------------------------------------	---	------	--------------	------	--------------

【課題】社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題がある。

【指導のポイント】話し手の意見を聞き、要点を捉えるようにすることが重要である。そのためには、文章の構成や要点を捉えるための手がかりとなる語句や表現に着目して聞くように促し、話し手が最も伝えたいことだと判断した根拠を話し合うことが必要となる。また、話す内容が思い浮かぶように、聞き取った内容をメモをし、賛否など、自分の考えやその理由を書き足したり、それらを線で結んだりするなどして、自分の考えを整理できるように指導する。そして、メモを基にペアで発表し合った後、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた内容になっているか、また、どのような表現がよりよいかについて振り返り、学級全体で共有する。その後、共有した振り返りを参考にして、自分の考えとその理由を再構築し、再度ペアで発表し合う機会を設けることが大切である。

中学校英語

中学校英語 10-(2)《平均正答率 29.4% (全国平均正答率 27.8%)》

【出題の趣旨】

社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

10

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(2) まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

<解答欄> ※半角で入力してください

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか



★授業改善のポイント★



読んだことを基に、自分の意見や感想などを書く際には、自分の考えをキーワードとしてメモや思考ツールに整理するよう指導することが考えられます。また、まとまりのある内容を書くことができるようにするためには、例えば、“I agree / don’t agree with… / because…”などの表現を用いて書き手の意見に対する賛否とその理由などを話した後に、話した内容を1～2文程度で書く活動を繰り返すことが大切です。そして、正確に書く力を高めるためには、書いたことについて語句の選択、語順などの文構造、動詞の活用などの視点から生徒同士で話し合う機会を設けたり、多くの生徒に共通する誤りや重要な文法事項に関する誤りを学級全体で確認し、よりよい表現を考えるようにしたりすることが重要です。

【授業アイディア例】国立教育政策研究所報告書 P.86～89

https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26meng_idea_10.pdf#page=11



(5) 質問調査の傾向

児童生徒質問A（小38 中38）「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

小学校（児童回答）						中学校（生徒回答）					
選択肢	発表していた	どちらかといえば、 発表していた	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	発表していた	どちらかといえば、 発表していた	左記合計	前回との差	全国との差
令和8年度	26.7	42.2	68.9	-2.2	2.5	令和8年度	21.2	45.2	66.4	2.4	0.9
令和7年度	27.1	44.0	71.1	0.6	2.5	令和7年度	18.1	45.9	64.0	-1.9	1.0
令和6年度	26.8	43.7	70.5	5.6	2.9	令和6年度	22.1	43.8	65.9	1.4	1.1

小学校平均正答率						中学校平均正答率					
選択肢	発表していた	どちらかといえば、 発表していた	どちらかといえば、 発表していなかった	発表していなかった	発表する機会は なかった	選択肢	発表していた	どちらかといえば、 発表していた	どちらかといえば、 発表していなかった	発表していなかった	発表する機会は なかった
国語	66.1	59.7	53.0	49.2	42.1	国語	71.4	66.8	58.4	53.2	53.3
算数	62.8	56.6	49.8	44.2	37.6	数学	67.9	62.6	51.7	44.1	44.8
						英語	552	523	479	453	460

※中学校英語（3技能）は平均IRTSコアで表示

学校質問A（小27 中27）「児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができる」

小学校（学校回答）						中学校（学校回答）					
選択肢	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	左記合計	前回との差	全国との差
令和8年度	11.0	66.9	77.9	1.4	-1.0	令和8年度	12.0	67.2	79.2	0.6	-2.2
令和7年度	11.6	64.9	76.5	2.2	-3.9	令和7年度	11.0	67.6	78.6	-6.1	-4.2
令和6年度	8.5	65.8	74.3	-2.4	-4.0	令和6年度	10.0	74.7	84.7	2.9	2.0

小学校平均正答率				
選択肢	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	そう思わない
国語	61.3	58.1	53.8	52.4
算数	57.9	55.1	51.0	48.5

中学校平均正答率				
選択肢	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	そう思わない
国語	64.5	64.2	60.5	58.4
数学	60.2	58.8	53.5	49.7
英語	516	511	496	468

※中学校英語（3技能）は平均IRTSコアで表示

児童生徒質問Aでは、小・中学校ともに肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が見られた。また、学校質問Aにおいても、「児童生徒が工夫して発表できている」と回答した学校ほど平均正答率が高い傾向が見られた。

一方で、児童生徒の自己評価と学校の評価との間には差が見られ、教師の評価の方が高い傾向にある。また、中学校では、発表する機会がなかった生徒と、機会があったが工夫して発表していなかった生徒との平均正答率に大きな差は見られなかった。

このことから、発表の機会を設けるだけでなく、自分の工夫が聞き手にどのように伝わったかを振り返り、次の発表に生かす学習過程が重要であると考えられる。

児童生徒質問B（小3 9 中3 9）「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」

小学校（児童回答）						中学校（生徒回答）					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和8年度	26.4	49.7	76.1	-2.4	-1.5	令和8年度	23.7	51.9	75.6	2.2	-3.2
令和7年度	26.7	51.8	78.5	-1.8	-1.8	令和7年度	19.9	53.5	73.4	-4.2	-4.3
令和6年度	26.7	53.6	80.3	3.3	-1.6	令和6年度	24.6	53.0	77.6	1.5	-2.7

小学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
国語	66.1	59.1	51.9	42.2
算数	63.9	55.7	47.0	38.7

中学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
国語	71.9	65.5	56.2	46.8
数学	70.4	60.8	46.9	34.9
英語	560	515	465	425

※中学校英語（3技能）は平均 I R T スコアで表示

学校質問B（小2 6 中2 6）「児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる」

小学校（学校回答）						中学校（学校回答）					
選択肢	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	左記合計	前回との差	全国との差
令和8年度	15.7	68.3	84.0	-1.9	-4.1	令和8年度	14.6	71.3	85.9	3.5	-1.3
令和7年度	16.0	69.9	85.9	3.4	-3.4	令和7年度	15.5	66.9	82.4	-6.6	-5.8
令和6年度	12.6	69.9	82.5	-1.6	-5.7	令和6年度	13.6	75.4	89.0	4.3	0.6

小学校平均正答率				
選択肢	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	そう思わない
国語	60.1	58.0	53.0	51.6
算数	57.5	54.8	50.1	50.6

中学校平均正答率				
選択肢	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	そう思わない
国語	64.7	63.8	60.1	57.3
数学	59.7	58.4	53.3	49.0
英語	513	510	495	473

※中学校英語（3技能）は平均 I R T スコアで表示

児童生徒質問Bでは、小・中学校ともに肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が見られた。特に、肯定的に回答した児童生徒とそうでない児童生徒との間には大きな差が見られ、本資料で取り上げた項目の中でも学力との関連が強い結果となった。

また、学校質問Bにおいて肯定的に回答した学校でも、平均正答率が高い傾向が見られた。

このことから、児童生徒が課題を自分事として捉え、主体的に学習を進めることが学力向上につながると考えられる。今後は、自ら問いをもち、課題解決に向けて主体的に学ぶことができる授業づくりをいっそう進めていくことが重要である。

児童生徒質問C（小40 中40）「授業では、各教科などで学んだことを生かしなが
ら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」

小学校（児童回答）						中学校（生徒回答）					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和8年度	24.3	46.9	71.2	-3.5	-2.2	令和8年度	18.6	46.8	65.4	1.5	-5.4
令和7年度	25.6	49.1	74.7	-2.0	-3.1	令和7年度	16.0	47.9	63.9	-6.3	-6.7
令和6年度	26.4	50.3	76.7	5.3	-2.9	令和6年度	20.7	49.5	70.2	7.0	-5.2

小学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
国語	65.4	59.3	53.8	48.0
算数	62.7	55.9	50.0	44.5

中学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
国語	70.9	66.2	59.7	52.9
数学	68.9	61.8	52.3	43.0
英語	556	519	483	453

※中学校英語（3技能）は平均 I R T スコアで表示

学校質問C（小36 中36）「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に
生かすことができるような機会を設ける」

小学校（学校回答）						中学校（学校回答）					
選択肢	よく行った	どちらかといえば、 行った	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	よく行った	どちらかといえば、 行った	左記合計	前回との差	全国との差
令和8年度	10.9	68.1	79.0	1.1	-8.0	令和8年度	11.0	60.3	71.3	-1.0	-8.6
令和7年度	12.0	65.9	77.9	1.6	-9.0	令和7年度	10.2	62.1	72.3	-0.5	-8.0
令和6年度	12.9	63.4	76.3	-1.1	-9.4	令和6年度	8.8	64.0	72.8	3.9	-5.8

小学校平均正答率				
選択肢	よく行った	どちらかといえば、 行った	どちらかといえば、 あまり行わなかった	全く行わなかった
国語	58.9	57.8	55.7	60.7
算数	55.7	55.0	52.3	56.7

中学校平均正答率				
選択肢	よく行った	どちらかといえば、 行った	どちらかといえば、 あまり行わなかった	全く行わなかった
国語	63.9	63.4	63.3	68.7
数学	58.9	57.8	57.5	65.4
英語	510	509	506	532

※中学校英語（3技能）は平均 I R T スコアで表示

児童生徒質問Cでは、小・中学校ともに肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が見られた。一方、学校質問Cでは、取組を行っている学校とそうでない学校との平均正答率の差は比較的小さい結果となった。

このことから、教科横断的な学習や課題解決の機会を設けること自体よりも、児童生徒一人一人が学んだことを実際に活用し、自分の考えをまとめる経験を積むことが重要であると考えられる。

今後は、活動の実施回数だけでなく、児童生徒が学んだことを活用して何を考え、何を表現できたかを重視した指導の充実が求められる。

児童生徒質問D（小4 3 中4 3）「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」

小学校（児童回答）						中学校（生徒回答）					
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差	選択肢	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	左記合計	前回との差	全国との差
令和8年度	28.8	47.3	76.1	-0.4	-2.3	令和8年度	25.5	50.0	75.5	6.9	-3.5
令和7年度	27.7	48.8	76.5	-1.8	-2.9	令和7年度	19.1	49.5	68.6	-6.0	-4.8
令和6年度	28.8	49.5	78.3	3.6	-2.5	令和6年度	23.5	51.1	74.6	9.1	-3.3

小学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
国語	64.5	58.8	53.2	47.6
算数	62.1	55.3	49.0	43.3

中学校平均正答率				
選択肢	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
国語	70.1	65.1	58.5	49.5
数学	68.0	60.3	49.8	39.2
英語	550	513	476	439

※中学校英語（3技能）は平均IRTスコアで表示

児童生徒質問Dでは、肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が見られた。特に中学校では、肯定的な回答の割合が前回より大きく増加している。

また、肯定的に回答した児童生徒とそうでない児童生徒との平均正答率には大きな差が見られ、学習内容を振り返り、自らの学びを調整する力が学力と深く関係していることがうかがえる。

このことから、振り返りを単なる活動として終わらせるのではなく、「何ができるようになったか」「何が課題か」「次に何をしたいか」を児童生徒自身が考え、次の学習につなげる取組を充実させることが重要であると考えられる。



(6) 授業改善の方向性

学びの主体は児童生徒です。学習指導要領では、児童生徒の「資質・能力」を総合的にバランスよく伸ばしていくことを目指しています。そのためには、私たち教師が日々の授業改善に取り組んでいくことが重要です。

1 楽しみながら基礎・基本の定着を図ろう

児童生徒が楽しく、切実感をもって学習したり、学習を通して学ぶ意味を実感し、その学びを深めたり広げたりするほど、基礎・基本の定着度は増します。「児童生徒にとって学ぶ意味のある学習」「教師から見て学ぶ価値のある学習」を実現する学習サイクルを計画的に組み立てましょう。

- ①児童生徒が「解決したい」「追究したい」と思えるような課題を提示し、その課題の解決に向けて、必要な知識・技能を自ら求めたくなるような学習活動を設定する。
- ②児童生徒が教科の本質に迫る学習活動を通して、基礎・基本を活用しながら、学ぶ楽しさを味わうとともに、自らの学びが深まっていくことを実感できる授業をデザインする。
- ③児童生徒が「振り返り」を通して、自分の学びを俯瞰的に捉え、足りないところを授業や家庭学習等で主体的に補える学習サイクルに導く。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組もう

児童生徒の実態把握と教材研究を通し、授業や単元におけるねらいを明確にした上で、教師が「個別最適な学び」や「協働的な学び」を盛り込んだ授業づくりを行いましょう。

- ①児童生徒が課題意識（ワクワク感）をもちながら、学ぶ意味や価値を見いだしたり、学習の見通しを立てたり、自己調整したりしながら探究したくなるような学習課題を自ら設定できるように工夫する。
- ②児童生徒が各教科の見方・考え方を、どのような場面でどのように働かせることができるかをイメージし、児童生徒の目線で授業展開を考え、組み立てを工夫する。
- ③児童生徒がペアやグループで互いの考えを聴き合い、自分の考えを深めることができるような、少人数での学び合いの場を積極的に取り入れる。
- ④カリキュラム・マネジメントを推進する中で、児童生徒が各教科等で育んだ「見方・考え方」を発揮できる場面をつくり、教科横断的な学びを促す。

3 一人一台端末を積極的かつ効果的に活用し、学習活動の充実を図ろう

学習のねらいを明確にし、課題を適切に設定したり、児童生徒の実態を的確に把握したりすることで、ICT機器を効果的に活用する時間を確保しましょう。また、ICT機器を活用することが目的ではなく、児童生徒がより「主体的・対話的で深い学び」へ向かうための一つのツールとして、また、学習の種類・内容・難易度・一人一人の実態や特性等に応じて効果的に活用しましょう。

- ①ICT機器を必要に応じて活用しながら、児童生徒が学びの記録を蓄積し、目的に合わせて他者と情報共有できるようにする。
- ②ICT機器の活用を通じた児童生徒の気付きや考えを可視化し、積極的に他者とかかわり合う時間を設ける。
- ③ICT機器を活用することにより、情報処理や情報共有のための時間を短縮し、児童生徒が学習のねらいに迫るために試行錯誤しながら考える時間を生み出す。

3 先生方へ

令和8年度全国学力・学習状況調査の本県の結果を分析し、見えてきた各教科の課題を踏まえ、重点的に取り組んでいただきたい内容を「授業改善のポイント」としてまとめました。

本年度の該当学年の課題として捉えるのではなく、今後の授業の中で、どの学年においても「授業改善のポイント」を参考に、意識的に取り組んでいただくことで、各教科における児童生徒の資質・能力の向上につながると考えています。

学びの主体は児童生徒です。「教師が教える授業」から、「児童生徒が学びとる授業」へ転換し、全ての子供たちが生涯にわたって学び続けることができるよう、日々の授業改善に取り組んでいただきたいと思います。また、小学校・中学校の校種を問わず、それぞれの課題を共有しながら、目の前の児童生徒のための授業改善の一助としていただけることを願っています。

国立教育政策研究所のウェブサイトにも多くの事例が紹介されています。各学年の授業づくりにお役立ていただければ幸いです。

※ 国立教育政策研究所のウェブサイトへはこちらのアドレスから

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>





令和 8 年 1 0 月